

1191 【汧】 氵部 2画 総画 5画 国字

〔読み〕 ぬかり いり

〔解説〕 字汧(ぬかり)は、福島県相馬市富沢の地名。『観智院本類聚名義抄』に「俗𣵀字乙隋反入」とある。国字でないとする説もあるが、日本以外の用例が出ていない。国字でないとするならば、中国を初めとする漢字圏諸国での音義等をつけるべきである。ただ、字喃にあり、また『観智院本類聚名義抄』に反切があることを考慮すれば、国字でない可能性は、否定しきれない。『大修館漢語新辞典』・『新漢語林』は、「いり」の読みで、「冢と同字」の国字とする。「換」を「いり」と読む典拠は浦安あたりを舞台とした山本周五郎の「青べか物語」に出てくる「沖の三ついり」という地名であるということを大修館書店の円満字氏にご教示されたが、現実の地名か否か判明しないので、地名例としなかった。『国字の位相と展開』にも詳しい。

1192 【汧】 氵部 3画 総画 6画 国字

〔読み〕 ぬた ぬる

〔解説〕 汧の川(ぬたのかわ)は、高知県高岡郡四万十町(旧: 高岡郡窪川町)仁井田の地区名。漢和辞典には、高知県高岡郡窪川町に「汧ノ川」もしくは「汧川」があるとするものが多い。平成9年に窪川町役場税務課及び町民課で聴取した結果では、汧の川が正しく、汧ノ川とする資料はないとのことであった。法務局の登記簿には、どちらの小字も存在しなかった。現地の住宅地図も「汧の川」が主で、一ヶ所あった「汧の川」については、「汧の川」の誤りなので、訂正するということであった。おそらく『国土行政区画総覧』の誤りであったのだろう。『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』には文字があるのみで注文がない。『永禄八年写二卷本色葉字類抄』・『早川流石写伊呂波字類抄』では「ヌル」の読みがつけられており、泥も同じ読みになっている(『前田本色葉字類抄』・『黒川本色葉字類抄』では、「泣」の字になっている)。同形別字と考えられるが、密教では「浄土」の略字として用いられる。JIS 漢字の典拠は『国土行政区画総覧』の誤りに基づくものようであるが、文字としては同形のもので存在することには間違いはない。この地名の歴史的変化を、地名辞典や高知県高岡郡窪川町役場(現在は、四万十町役場)での聞き取り調査で示すと次のようになる。江戸時代に初めて見えるのは、「湫ノ川」で、明治時代に「汧ノ川」、その後「汧の川」を経て、平成9年調査時の総代会名簿では「汧の川」となっていた。その後、平成14年1月1日から「汧の川」になっているが、「汧」がJIS 漢字にないので不便であるという理由などにより、変更されたものである。平成14年7月1日から「汧の川」になったとする辞典があるが誤りである。「汧」参照。

1193 【汧】 氵部 3画 総画 6画 「つらら」は、国訓

〔読み〕 つらら

〔解説〕 『運歩色葉集』・『天正十七年本節用集』・『惠空編節用集大全』に「ツラハ」とある。『中華字海』が唐代の『王君妻梁氏墓志』を典拠に「同汧」とする。「汧」は、川の名など地名や人名に使われる字であり、「つらら」は、国訓である。

1194 【汧】 氵部 3画 総画 6画 国字あるいは「派」の異体字か

〔読み〕 ハ

〔解説〕 苗字に汧谷(はたに)がある(丹羽基二著『苗字 この不思議な符牒』)。国字ではなく、「派」の和製異体字とも考えられる。

1195 **汜**

1196 **沏** 彳部 5画 総画 8画 国字

〔読み〕 とく

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』に「トク ナリ」、『寛元本字鏡集』に「トクナリ」とある。

1197 **翊** 彳部 6画 総画 9画 国字

〔読み〕 たすく

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『寛元本字鏡集』に「タスク」、『永正本字鏡抄』に「クスク」、『篇目次第』に「タスク 无」とある。

1198 **湯** 彳部 6画 総画 9画

〔読み〕 す

〔解説〕 苗字に大湯(おおす)がある。「洲」の異体字か。『中華字海』が『龍龕手鑑』を典拠に「音顔色の色。義未詳」とする。同形別字ではあろうが、当辞典では国字としない。

1199 **梁** 彳部 6画 総画 9画 国字

〔読み〕 ひび

〔解説〕 『大辞典』に、「梁苔浮名望潮(ひびにたつうきなのはつしお)」は、文久2年(1862)8月所演の歌舞伎の脚本とある。「梁」の字形を、『歌舞伎浄瑠璃外題よみかた辞典』は、「深」とする。

1200 **深** 彳部 6画 総画 9画 国字

〔読み〕 ひび

〔解説〕 文久2年(1862)8月初演の歌舞伎の外題、「深苔浮名望潮(ひびにたつうきなのはつしお)」に使われる字。親字の字形は、『歌舞伎浄瑠璃外題よみかた辞典』によるが、『大辞典』は、「梁」とする。

1201 **澆** 彳部 7画 総画 10画 国字

〔読み〕 トク みぞ

〔解説〕 『中華字海』に「音義待考。字出《ISO-IEC DIS 10646 通用編碼字符集》」とある。拡張新字体であろうから、広い意味で和製異体字か。(解説途中)

1202 **淚** 彳部 7画 総画 10画 国字

〔読み〕 ひたる くり

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「ヒタル クリ」とある。「ひたる・ひだる」・「くり」ともに、親字に「火」が含まれる理由を説明できる言葉が見つからない。

1203 **泝** 彳部 7画 総画 10画 「めくる」は、国訓

〔読み〕 めくる

〔解説〕 『寛元本字鏡集』に「メクル」とある。『中華字海』にあるが、「めくる」意はない。『音訓篇立』には、「泝」の字形で、「メクル」とある。

1204 **漉** 彳部 7画 総画 10画 「漉」の異体字

〔読み〕 したたる

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「シタタル」とある。『中華字海』に「滂」があり『篇海』を典拠に「同滂」とする。国字説もある「杫」が「杉」の行書体を楷書化してできた異体字にすぎないのと同じことがこの字にもいえる。『寛元本字鏡集』に「滂 シタハル」とある。

1205 **澆** 彳部7画 総画10画 国字

〔読み〕 はま

〔解説〕 苗字に澆田(はまだ)がある。「滂」・「滂」参照。

1206 **滂** 彳部7画 総画10画 国字

〔読み〕 はま

〔解説〕 『新潮日本語漢字辞典』に、滂田(はまだ)は、姓氏の一つとある。国字「滂」の異体字か。「滂」・「澆」参照。

1207 **滂** 彳部7画 総画10画 国字

〔読み〕 はま はかま

〔解説〕 苗字に滂田(はまだ・はかまだ)がある。「澆」・「滂」参照。

1208 **漉** 彳部8画 総画11画 国字

〔読み〕 はらう

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「ハラフ」とある。

1209 **漉** 彳部8画 総画11画 「なぎ」は、国訓

〔読み〕 カ なぎ

〔解説〕 苗字に漉田(なぎた)がある。山口県萩市の地名に夕漉(ゆうなぎ)が、和歌山県串本町に野漉(のうなぎ)がある。「凧(なぎ)」の意の国字とする説があるが、『中華字海』が『南齊書』を引き「音河〔涑〕水波翻騰」とする。国字ではない。『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』にも音が「歌(クワ)」と示されている。

1210 **淪** 彳部8画 総画11画 「命」の異体字か

〔読み〕 メイ いのち

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「俗命字」とある。

1211 **澗** 彳部8画 総画11画 国字

〔読み〕 ソウ そぶ そま

〔解説〕 苗字に澗川(そうかわ・そぶかわ・そまかわ)がある。「澗」の別体とする説もある。

1212 **滓** 彳部8画 総画11画 国字

〔読み〕 うちはたす

〔解説〕 『伊京集』に「ウチハタス」とある。

1213 **滓** 彳部9画 総画12画 国字

〔読み〕 どんど

〔解説〕 字滓(どんど)は、福井市の地名。笹原宏之著『日本の漢字』に「固定資産税の関係では地番だけになっているが、法務局ではまだ字を使っているという。」とある。「どんど」は、「水が音を立てて流れるさま」また、「堰・小さな滝・水が落ちるところ」などを表す方言である。手元

にある国語辞典などで、京都・石川・岐阜・滋賀・三重などに残る方言であることがわかった。まさに福井を取り囲む府県であり、福井にこの地名が残っていても何の不思議もない。

1214 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 こう

〔解説〕 苗字に漑(こう)がある。

1215 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 サン みなと とだえ

〔解説〕 『音訓篇立』に「ミナト トタエ」、『法華三大部難字記』に「サン トタエ」とある。「水門・港(みなと)」また「途絶え(とだえ)」の意の国字か。

1216 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 さかほる

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「サカホル」とある。

1217 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 すりこ

〔解説〕 『音訓篇立』に「スリコ」とある。「摺粉(すりこ)」とは、米を摺って、粉にしたもの。湯に溶いて、母乳の代わりにしたという。

1218 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 たり

〔解説〕 苗字に仲村漑(なかかんだり なかかんだり)がある。『国史大辞典』に中村渠(なかんだかり)がある。これの転じたものか。

1219 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 ラツ

〔解説〕 笹原宏之著『「JIS X 0208」における音義未詳字に対する原典による同定』に、「日本で澁刺の「刺」が「澁」の偏につられて三水が付いて派生した字体として異体字ともいえよう。」とある。使用例も同書に詳しい。「漑」が使われる用例を「刺」に置き換えることはできても、「刺」が使われる用例のすべてを「漑」に置き換えることができるわけではない。以上の理由から、日本でできた異体字ではなく、国字としておく。『中華字海』に「音義待考。字出《ISO-IEC DIS 10646 通用編碼字符集》」とある。

1220 **漑** 彡部 9画 総画 12画 国字

〔読み〕 ふくつけし

〔解説〕 『音訓篇立』に「フクツケシ」とある。「フクツケシ」とは、欲が深いこと。「倣」・「倣」・「倣」・「倣」・「倣」参照。

1221 **漑** 彡部 10画 総画 13画 国字

〔読み〕 めぐる

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『音訓篇立』に「メクル」とある。

1222 **漑** 彡部 10画 総画 13画 国字

〔読み〕 たまたま

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「タマタマ」とある。副詞に使われるめずらしい国字。

1223 **【漉】** 彳部 10画 総画 13画 国字

〔解説〕 『国字の位相と展開』に「桂川」を田中省吾が「漉」とした」とある。

1224 **【漚】** 彳部 11画 総画 14画 国字

〔読み〕 セツ ゆき きよむ

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』・『鎮国守国神社本類聚名義抄』に「俗雪字」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』に「セツ 雪 同 ユキ キヨム」とある。音注があるが、『中華字海』などになく、旁に引かれて日本でつけられたものか。

1225 **【瀨】** 彳部 11画 総画 14画 国字

〔読み〕 きくすい

〔解説〕 「瀨吉野内裏(きくすい よしのだいら)」享保13年(1728)11月初演の歌舞伎の外題。

1226 **【瀨】** 彳部 11画 総画 14画 国字

〔読み〕 きしゃ

〔解説〕 『線音雙引漢和大辞典』(国字)に「キシヤ」とある。

1227 **【潢】** 彳部 11画 総画 14画 国字

〔読み〕 つ

〔解説〕 白土三平の忍法秘帖シリーズ第2巻に『桙黥儻潢』がある。江戸時代からある忍者文字で、この4文字で「イシミツ」と読む。益山健氏のホームページ「巷で見かける変わった文字達」にこの本の背表紙の写真があり、JIS 漢字の「潢」ではないことがわかる。JIS 漢字の包括基準に該当するのだろうが、この文字を JIS 漢字で正確に表せないことに違いない。

1228 **【漚】** 彳部 11画 総画 14画 「はぐろめ」は、国訓

〔読み〕 はぐろめ おはぐろ

〔解説〕 「漚」も同じ。「はぐろめ(おはぐろ)」の意で国字とされることがある。『廣韻』などに「水名、在雍州」とあり、国字ではない。『観智院本類聚名義抄』・『天文本字鏡鈔』なども同様の記述であるが、『新撰字鏡』のみが、反切の後「黒泥又黒豆知」とする。影響は受けていないだろうが、古壮字に「墨」などの意であり、意味的に近い。

1229 **【漚】** 彳部 12画 総画 15画 「はぐろめ」は、国訓

〔読み〕 はぐろめ おはぐろ

〔解説〕 「漚」に同じ。

1230 **【漚】** 彳部 12画 総画 15画 国字

〔読み〕 のり

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『寛元本字鏡集』・『篇目次第』・『音訓篇立』に「ノリ」とある。「海苔(のり)」の色は、濃い紫色と表現できなくもないので、「海+紫」の省画合字か。

1231 **【漚】** 彳部 12画 総画 15画 国字

〔読み〕 おさむ

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「ヲサム」とある。

1232 **澆** 彳部 12画 総画 15画 国字

〔読み〕 いと

〔解説〕 苗字に大澆(おおいと)がある。国字とされるが、「澆」の変化した字とする説もある。(解説途中)

1233 **漶** 彳部 12画 総画 15画 漢字

〔読み〕 みなかみ

〔解説〕 苗字に漶(みなかみ)があり、『国字の字典』が国字とする。『廣韻』に「子入切泉出」とある。泉の出るところ、すなわち「みなかみ」と考えると国訓でもなくなる。『新撰字鏡』に「姉入反泉出也」とある。

1234 **飲** 彳部 12画 総画 15画 「飲」の異体字か

〔読み〕 イン のむ

〔解説〕 『観智院本類聚名義抄』に「俗飲字」とある。日本でできた「飲」の異体字か。

1235 **煎** 灬部 13画 総画 16画 国字

〔読み〕 あらう すすぐ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』に「アラフ スハク」、『篇目次第』に「スハク 无」とある。

1236 **𩺰** 灬部 13画 総画 16画 国字

〔読み〕 えび

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「エヒ」とある。「海老(えび)」の合字としてできた国字の崩れた字か。

1237 **漶** 灬部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 しるす

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』に「シルス」とある。

1238 **灑** 灬部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 おおいなり きわむ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』に「ヲホイナリ キハム」、『永正本字鏡抄』に「オホイナリ キハム」、『篇目次第』に「ヲホイナリ キハム 无」、『音訓篇立』に「ヲホイ也 キハム」とある。

1239 **灑** 灬部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 とだえ

〔解説〕 『法華三大部難字記』に「トタへ」とある。「灑」・「灑」・「灑」参照。

1240 **漶** 灬部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 ふか

〔解説〕 苗字に漶海(ふかうみ)がある。

1241 **漶** 灬部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 しょう じょう まい

〔解説〕 苗字に円漶(ほうしょう・ほうじょう・ままい)がある。

1242 **灑** 灑部 14画 総画 17画 「灑」の異体字か

〔読み〕 ソ さかのぼる

〔解説〕 『享和本新撰字鏡』・『群書類従本新撰字鏡』に「灑同桑故反去逆流而上曰灑回也行字加夫又於与支」とある。注文からして「灑」の異体字と考えられる。『中華字海』などになく、和製異体字かも知れないが、反切があることからすると、『享和本新撰字鏡』・『群書類従本新撰字鏡』共通の祖本からの誤字かも知れない。佚存文字(中国などに元々存在したが、その後失われた文字)ということも考えられる。

1243 **灑** 灑部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 解説参照

〔解説〕 「躰改五灑賑(さきわけのいつつのはなひめ)」は、長唄の名。

1244 **灑** 灑部 14画 総画 17画 国字

〔読み〕 ボク

〔解説〕 隅田川(旧表記は墨田川)の意の墨水を一字にしたもの。江戸時代、林述斎の造字。「腺」・「臍」とともに造字者のわかっている数少ない国字である。『大漢語林』・『大修館漢語新辞典』・『漢字源』にある字形は黒が旧字体の「灑」になっているが、JIS 補助漢字ではこの形になっている。『新大字典』は JIS 補助漢字と同じ「灑」である。JIS 第3水準では『大漢語林』などと同じ字形になっている。『漢字源改訂第四版』は、「灑」・「灑」ともに載せる。いずれにしても国字であることには変わらない。

1245 **灑** 灑部 15画 総画 18画 国字

〔読み〕 ボク

〔解説〕 隅田川(旧表記は墨田川)の意の墨水を一字にしたもの。江戸時代、林述斎の造字。「腺」・「臍」とともに造字者のわかっている数少ない国字である。『大漢語林』・『大修館漢語新辞典』などは、この字形で、『新大字典』は JIS 補助漢字と同じ「灑」である。『大漢語林』は、JIS 補助漢字のコードを示しながら、親字を JIS 第3水準の字形「灑」とする。『漢字源改訂第四版』は、「灑」・「灑」ともに載せる。いずれにしても国字であることには変わらない。

1246 **灑** 灑部 15画 総画 18画 「灑」の異体字

〔読み〕 あめ

〔解説〕 『惠空編節用集大全』に「あめ 豆ヲ煮ル汁也」とある。正確に言うと、「灑」の行書体としてこのような字形がある。それを『惠空編節用集大全研究並びに索引』の索引編において造字困難として、索引見出し下の漢字を省略したものの一覧が、「節用集大全」難字語彙表として、別冊で作られている。その中にある行書体を楷書化して手書きで示されている文字である。この字は、宮沢賢治の作った「灑」の異体字とされることが多いが、行書体を楷書化すれば、いつでも存在しえた文字であることを示すために掲載した。

1247 **灑** 灑部 15画 総画 18画 国字

〔読み〕 そなう

〔解説〕 『篇目次第』に「ソナフ 无」とある。

1248 **灑** 灑部 15画 総画 18画 国字

〔読み〕 のむ

〔解説〕 『寛元本字鏡集』に「ノム」、『篇目次第』に「ノム 无」とある。字形からして祈む意とも、

飲む意とも考えられるが、いずれにしても国字を作らなければならない必然性が感じられない。

1249 **瀨** 彳部 15画 総画 18画 国字

〔読み〕 とだえ

〔解説〕 『玉篇略』に「トタへ」とある。「瀨」・「瀨」・「瀨」参照。

1250 **瀨** 彳部 17画 総画 20画 国字

〔読み〕 とだえ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』に「トタへ」、『篇目次第』に「トタへ 无」とある。「瀨」・「瀨」・「瀨」参照。

1251 **瀨** 彳部 17画 総画 20画 国字

〔読み〕 きこのう

〔解説〕 『音訓篇立』に「キコノフ」とある。

1252 **瀨** 彳部 18画 総画 21画 国字

〔読み〕 とだえ

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』に「トタへ」、『篇目次第』に「トタへ 无」とある。「瀨」・「瀨」・「瀨」参照。

1253 **瀨** 彳部 19画 総画 22画 国字

〔読み〕 とき

〔解説〕 『歌舞伎・浄瑠璃外題よみかた辞典』に「梅八島勝瀨(さきがけかしまのかちどき)明和7年(1770)11月初演」とある。「瀨」一字で「とき」と読むのではなく、「勝瀨」で「かちどき」と読ませているという方が適切か。

1254 **瀨** 彳部 19画 総画 22画 国字

〔読み〕 シュ

〔解説〕 「大座附瀨賑凱歌(おおざつき しゅえんのかちどき)」は、明和2年(1765)11月初演の歌舞伎の外題。